

13 障害者差別の解消について

(1) 障害者から困っていることを伝えられたときやヘルプマークの携帯者を見かけたときの行動や気持ち

問36 障害者から困っていることを伝えられたときやヘルプマーク（※）の携帯者を見かけたとき、あなたの行動や気持ちとして最も当てはまるものを次の中から1つ選んでください。

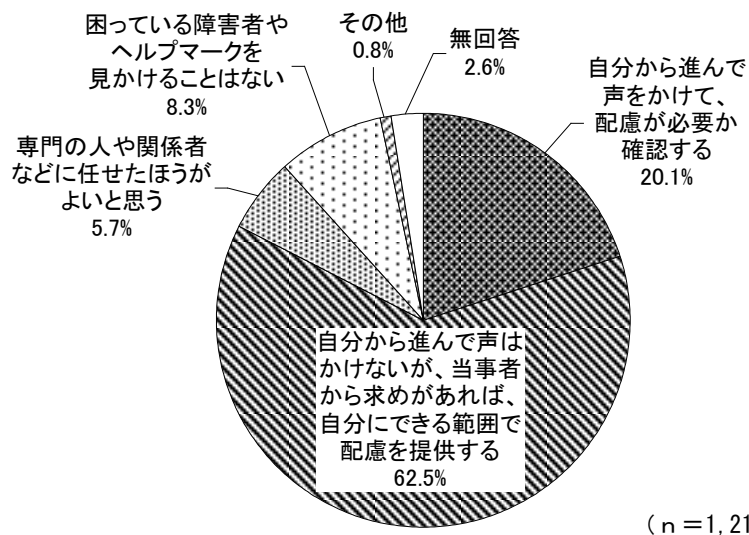
※ ヘルプマークとは、援助や配慮を必要としていることが外見からは分かりにくい障害のある方が、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせ、援助を得やすくするためのマークをいいます。

※ 障害者に対する合理的配慮の一例

車椅子を押す、ドアの開閉の手助け、聴覚障害者との手話や筆談、視覚障害者の案内、その他状況に応じたルールの変更等

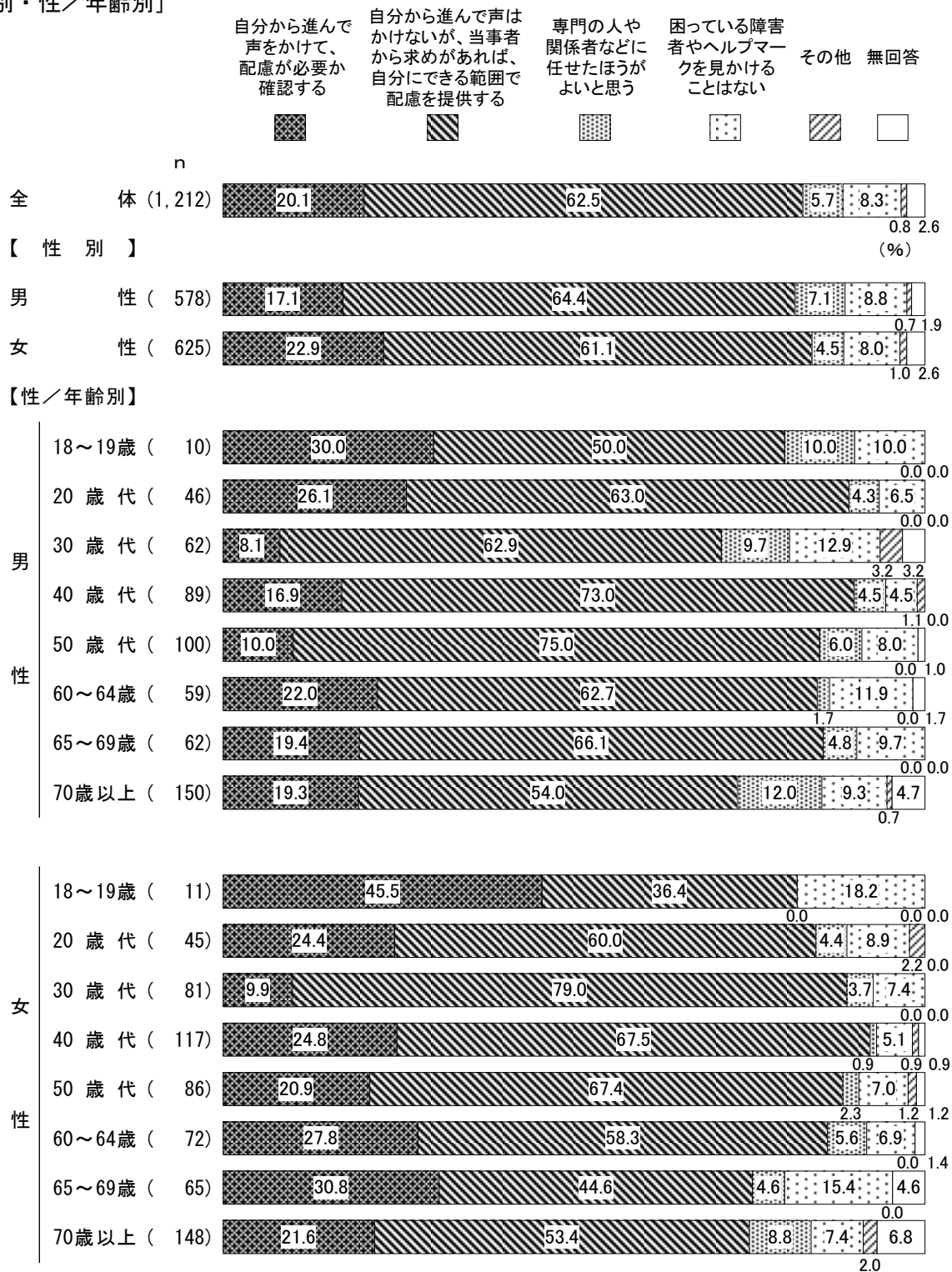
[n = 1, 212]

1	自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する	20.1%
2	自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する	62.5%
3	専門の人や関係者などに任せたほうがよいと思う	5.7%
4	困っている障害者やヘルプマークを見かけることはない	8.3%
5	その他	0.8%
	(無回答)	2.6%



全体でみると、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」(20.1%)は2割となっている。「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する」(62.5%)は6割を超えており、「専門の人や関係者などに任せたほうがよいと思う」(5.7%)は1割に満たない。

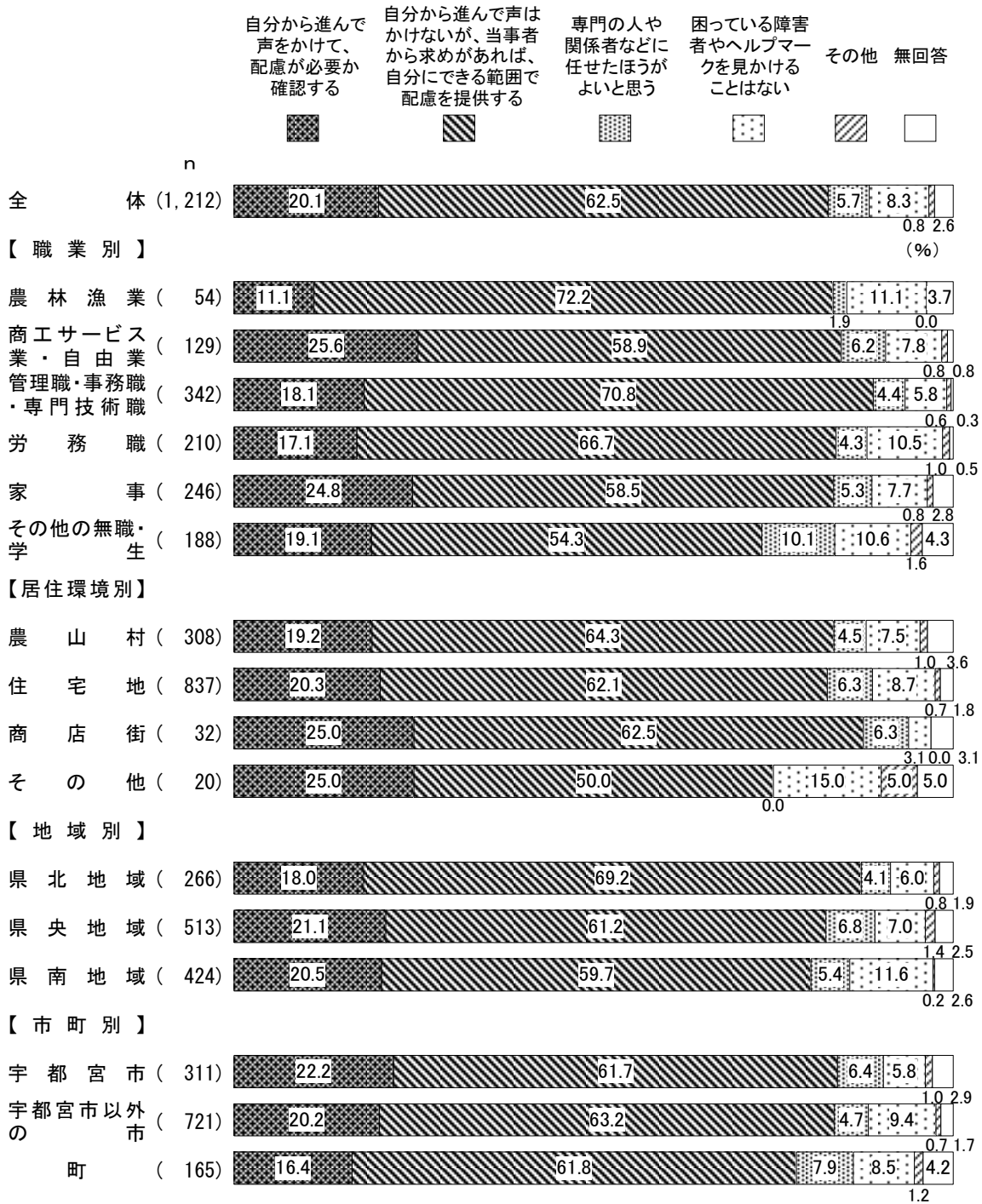
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」では〈女性〉(22.9%)が〈男性〉(17.1%)より5.8ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」では〈女性65～69歳〉が30.8%、〈女性60～64歳〉が27.8%と高くなっている。「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する」では〈女性30歳代〉が79.0%、〈男性50歳代〉が75.0%、〈男性40歳代〉が73.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」では〈商工サービス業・自由業〉が25.6%、〈家事〉が24.8%と高くなっている。「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する」では〈農林漁業〉が72.2%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が70.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」では〈商店街〉が25.0%と高くなっている。

地域別でみると、「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する」では〈県北地域〉が69.2%と高くなっている。

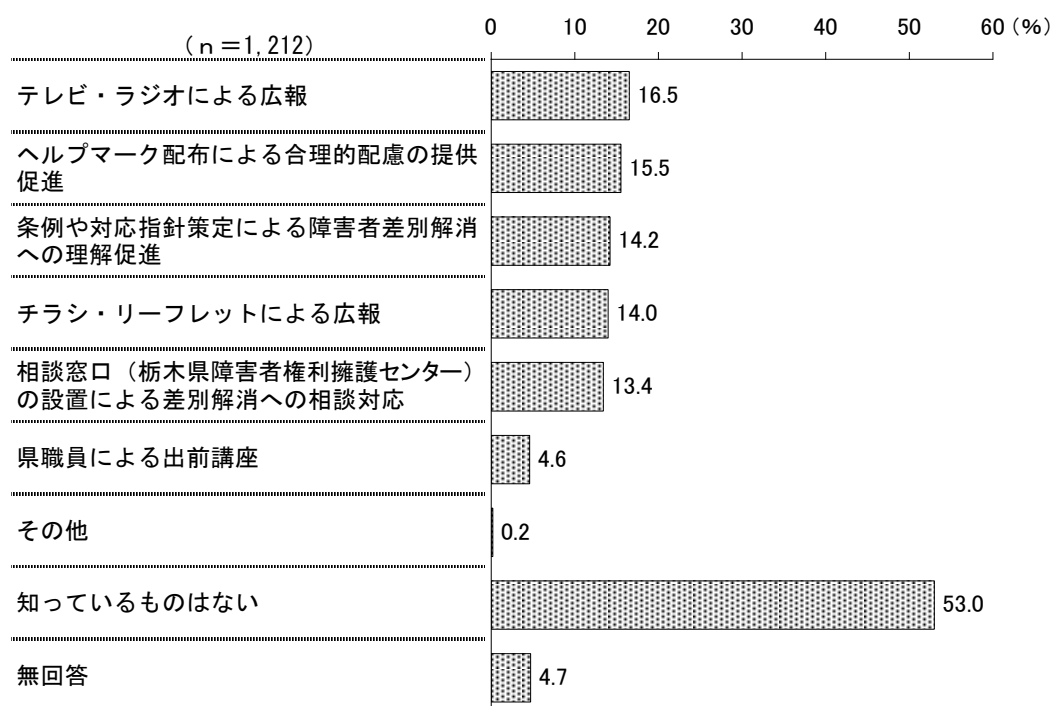
市町別でみると、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」では〈宇都宮市〉が22.2%と高くなっている。

(2) 障害を理由とする差別の解消のための県の取組で知っていること

問37 栃木県では、障害を理由とする差別の禁止や理解の促進に向けて「栃木県障害者差別解消推進条例の制定」や「相談窓口の設置」、「ヘルプマークの配布」等の様々な取組を行っています。あなたが、この取組に関し、知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,212]

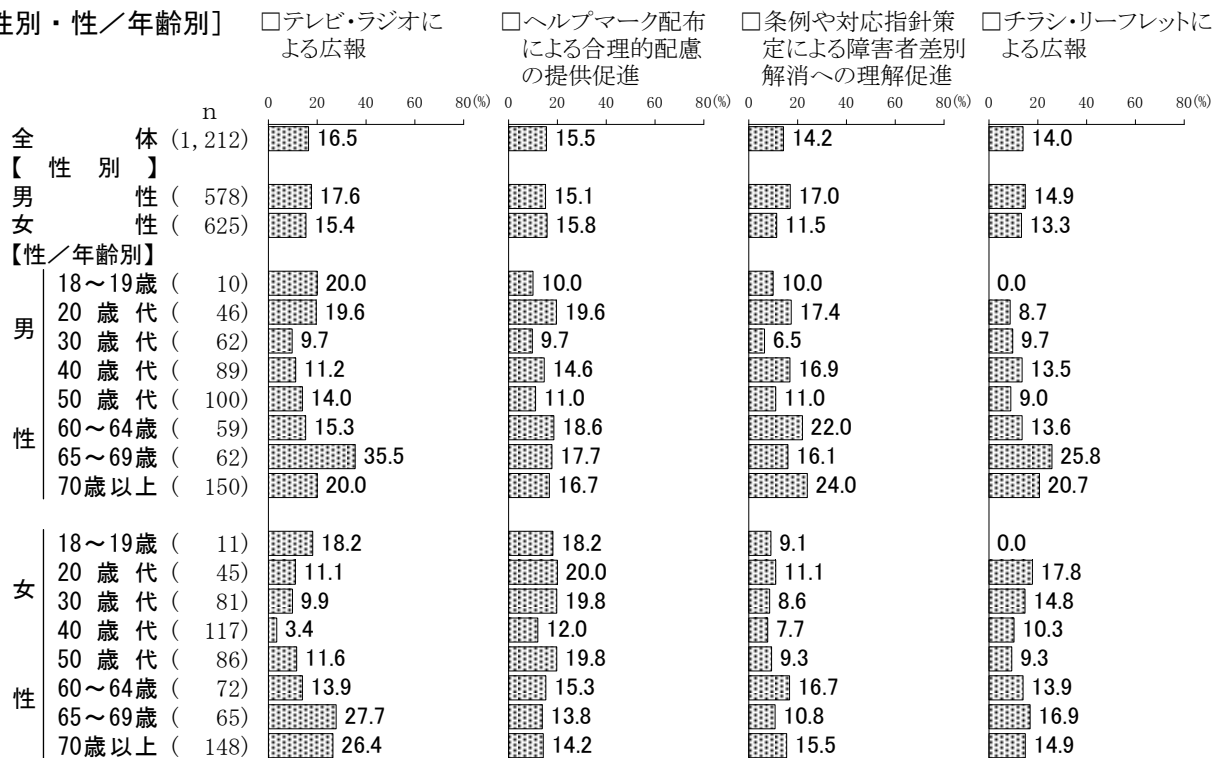
1	条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進	14.2%
2	相談窓口（栃木県障害者権利擁護センター）の設置による差別解消への相談対応	13.4
3	ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進	15.5
4	テレビ・ラジオによる広報	16.5
5	チラシ・リーフレットによる広報	14.0
6	県職員による出前講座	4.6
7	その他	0.2
8	知っているものはない	53.0
	(無回答)	4.7



全体で見ると、「テレビ・ラジオによる広報」(16.5%)が2割近くとなっており、次いで「ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進」(15.5%)、「条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進」(14.2%)、「チラシ・リーフレットによる広報」(14.0%)、「相談窓口（栃木県障害者権利擁護センター）の設置による差別解消への相談対応」(13.4%)の順となっている。

また、「知っているものはない」(53.0%)は5割を超えている。

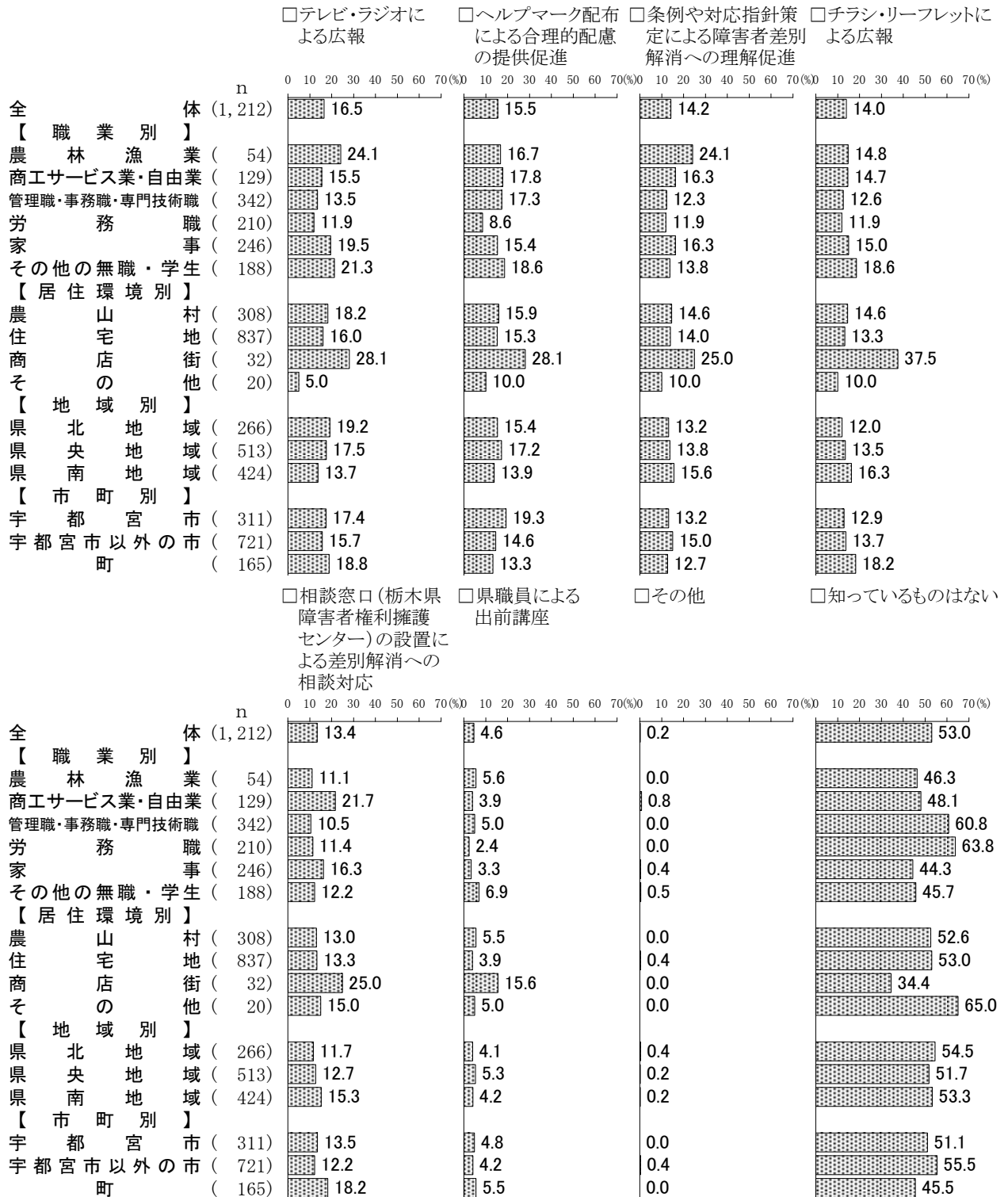
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進」では〈男性〉(17.0%)が〈女性〉(11.5%)より5.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「テレビ・ラジオによる広報」では〈男性65～69歳〉が35.5%、〈女性65～69歳〉が27.7%、〈女性70歳以上〉が26.4%と高くなっている。「条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進」では〈男性70歳以上〉が24.0%と高くなっている。「チラシ・リーフレットによる広報」では〈男性65～69歳〉が25.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「テレビ・ラジオによる広報」では〈農林漁業〉が24.1%と高くなっている。「条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進」では〈農林漁業〉が24.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「テレビ・ラジオによる広報」では〈商店街〉が28.1%と高くなっている。「条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進」では〈商店街〉が25.0%と高くなっている。「チラシ・リーフレットによる広報」では〈商店街〉が37.5%と高くなっている。

地域別でみると、「テレビ・ラジオによる広報」では〈県北地域〉が19.2%となっている。

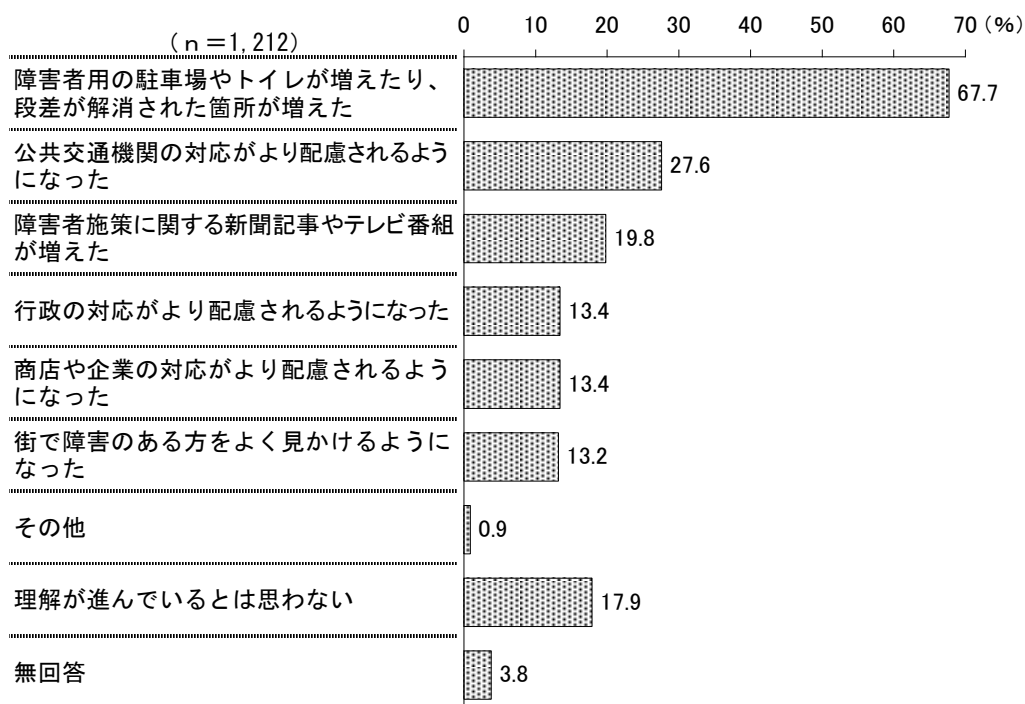
市町別でみると、「ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進」では〈宇都宮市〉が19.3%となっている。

(3) 障害を理由とする差別の解消について理解が進んでいると感じること

問38 障害を理由とする差別の解消について、理解が進んでいると感じている点がありますか。
次の中からいくつでも選んでください。

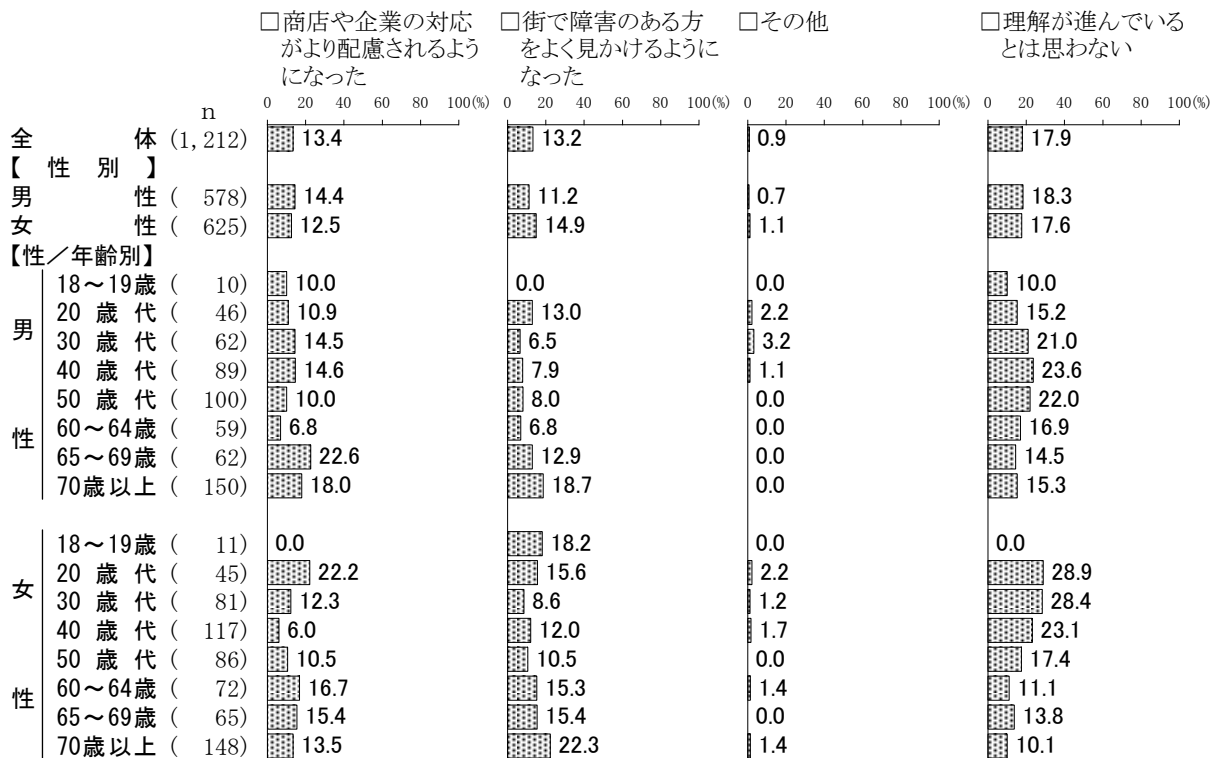
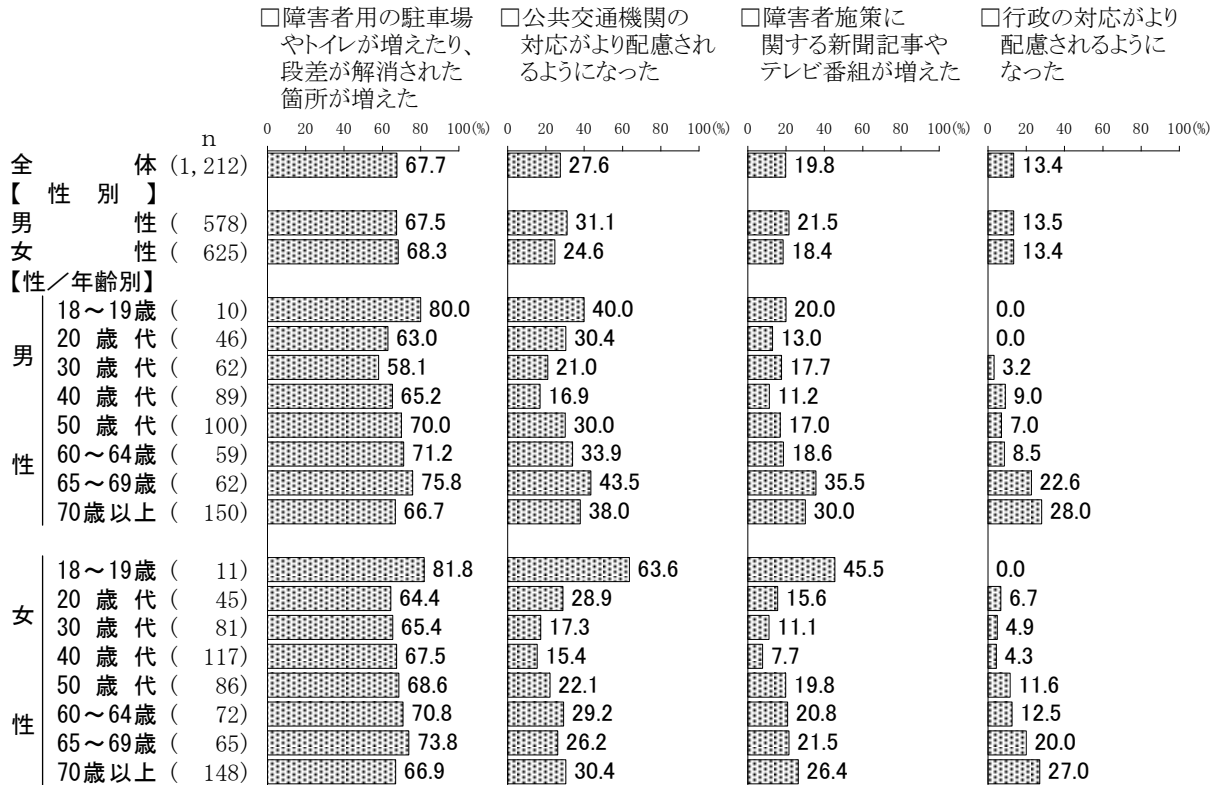
[n=1,212]

1	障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた	67.7%
2	行政の対応がより配慮されるようになった	13.4
3	商店や企業の対応がより配慮されるようになった	13.4
4	公共交通機関の対応がより配慮されるようになった	27.6
5	障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた	19.8
6	街で障害のある方をよく見かけるようになった	13.2
7	その他	0.9
8	理解が進んでいるとは思わない	17.9
	(無回答)	3.8



全体で見ると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」(67.7%)が7割近くで最も高く、次いで「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」(27.6%)、「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」(19.8%)、「行政の対応がより配慮されるようになった」(13.4%)、「商店や企業の対応がより配慮されるようになった」(13.4%)、「街で障害のある方をよく見かけるようになった」(13.2%)の順となっている。

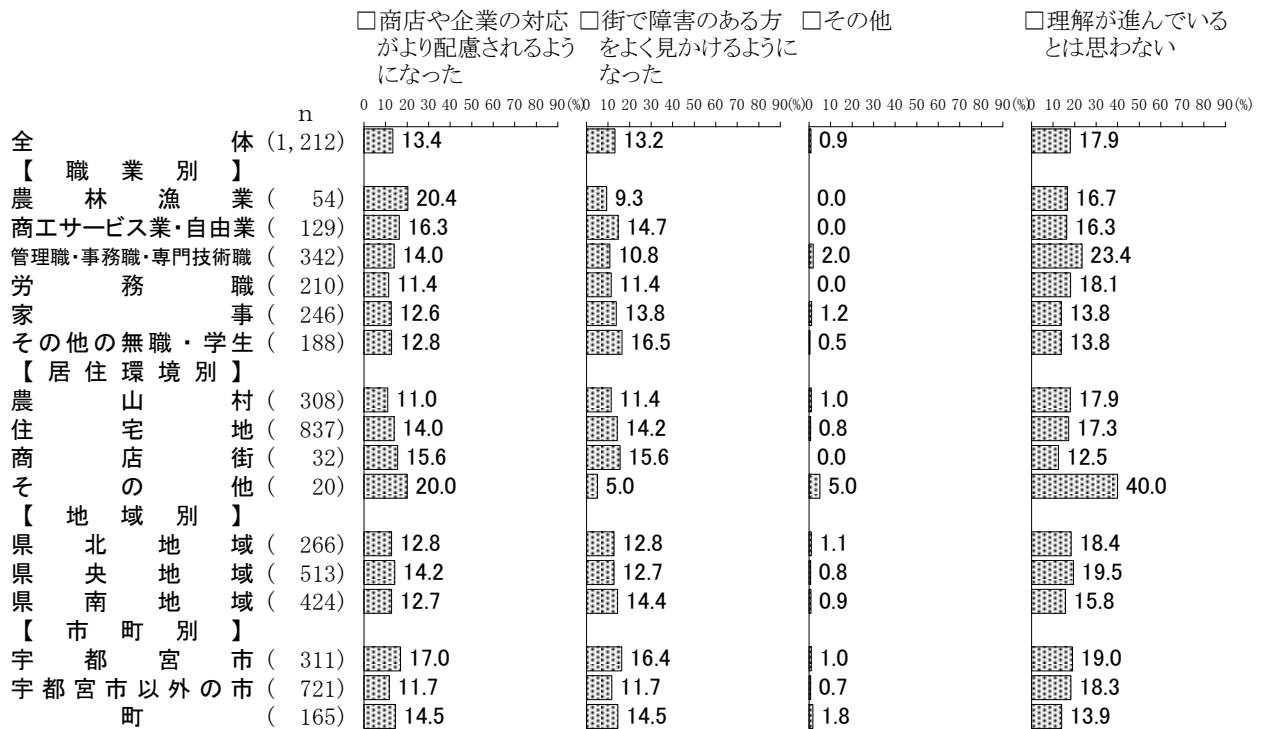
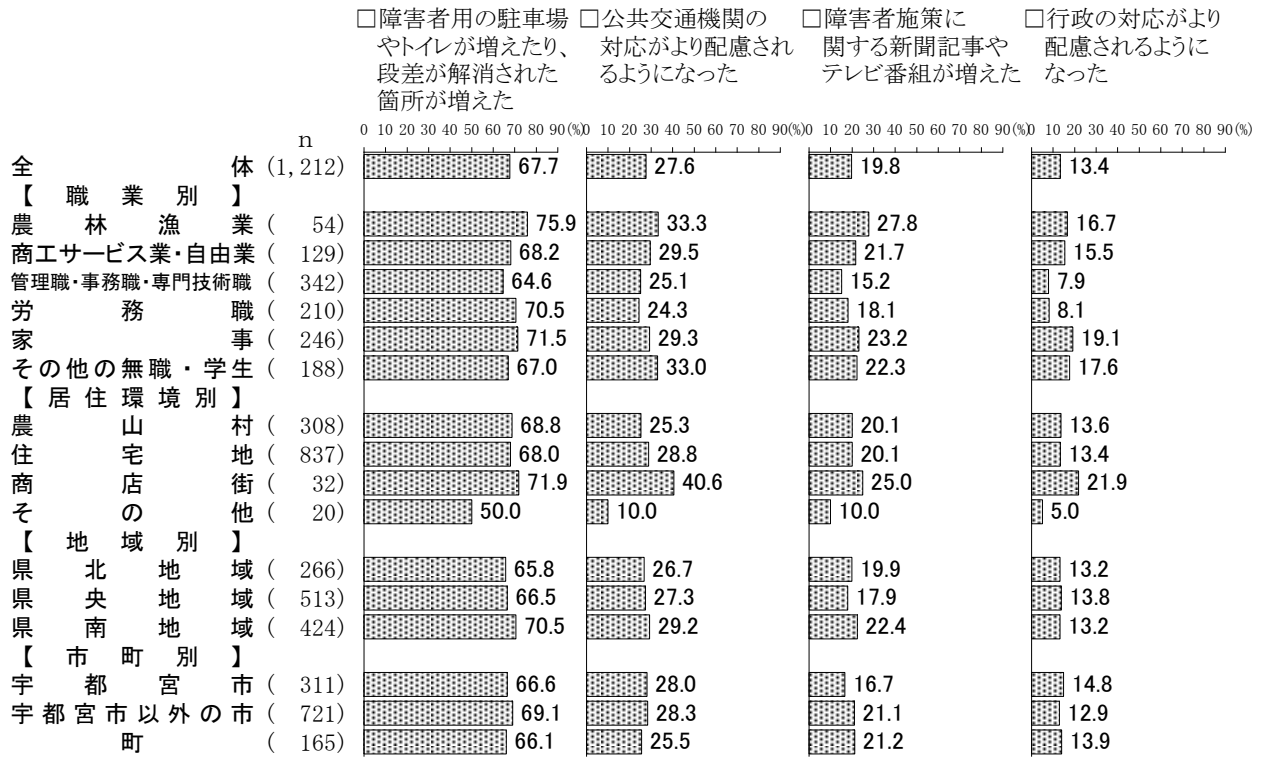
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈男性〉(31.1%)が〈女性〉(24.6%)より6.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈男性65～69歳〉が43.5%、〈男性70歳以上〉が38.0%と高くなっている。「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」では〈男性65～69歳〉が35.5%、〈男性70歳以上〉が30.0%と高くなっている。「行政の対応がより配慮されるようになった」では〈男性70歳以上〉が28.0%、〈女性70歳以上〉が27.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」では〈農林漁業〉が75.9%と高くなっている。「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」では〈農林漁業〉が27.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈商店街〉が40.6%と高くなっている。

地域別でみると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」では〈県南地域〉が70.5%と高くなっている。

市町別でみると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」では〈宇都宮市以外の市〉が69.1%と高くなっている。